

デフォルトの H.323 セッション アプリケーションへの MGCP ゲートウェイのフォールバック

目次

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[表記法](#)

[設定](#)

[ネットワーク図](#)

[設定](#)

[Cisco Unified SRST と Cisco Unified CallManager の統合](#)

[確認](#)

[トラブルシューティング](#)

[トラブルシューティングのためのコマンド](#)

[関連情報](#)

概要

このドキュメントでは、プライマリ Cisco CallManager サーバへの WAN Transmission Control Protocol (TCP) 接続が失われ、使用可能なバックアップ Cisco CallManager サーバがない場合に、メディア ゲートウェイ コントロール プロトコル (MGCP) ゲートウェイを H323 セッション アプリケーションにフォールバックできるようにする方法について説明します。

前提条件

要件

このドキュメントに関する固有の要件はありません。

使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、次のソフトウェアとハードウェアのバージョンに基づくものです。

- Cisco IOS(R) ソフトウェア リリース 12.3(4)T1
- Cisco 3700 シリーズ ルータ
- Cisco CallManager 3.3 以降

注: MGCP フォールバックおよび Survivable Remote Site Telephony (SRST) を同じ装置上で実行する場合、最低でも Cisco IOS ソフトウェア バージョン 12.2(11)T が必要になります。

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな（デフォルト）設定で作業を開始しています。対象のネットワークが実稼働中である場合には、どのような作業についても、その潜在的な影響について確実に理解しておく必要があります。

[表記法](#)

ドキュメント表記の詳細は、『[シスコテクニカルティップスの表記法](#)』を参照してください。

[設定](#)

アクティブの MGCP アナログ コールおよび T1 個別線信号方式（CAS）コールはすべて、フォールバック移行中も維持されます。フォールバック移行は通話者に気付かれることはなく、アクティブ MGCP コールがクリアされるのは、通話者が電話を切ったときだけです。アクティブ MGCP PRI バックホール コールは、フォールバック中に解放されます。

過渡的な MGCP コール（まだ接続状態になっていないコール）は、フォールバック移行の開始時にクリアされるため、後で掛け直しが必要になります。

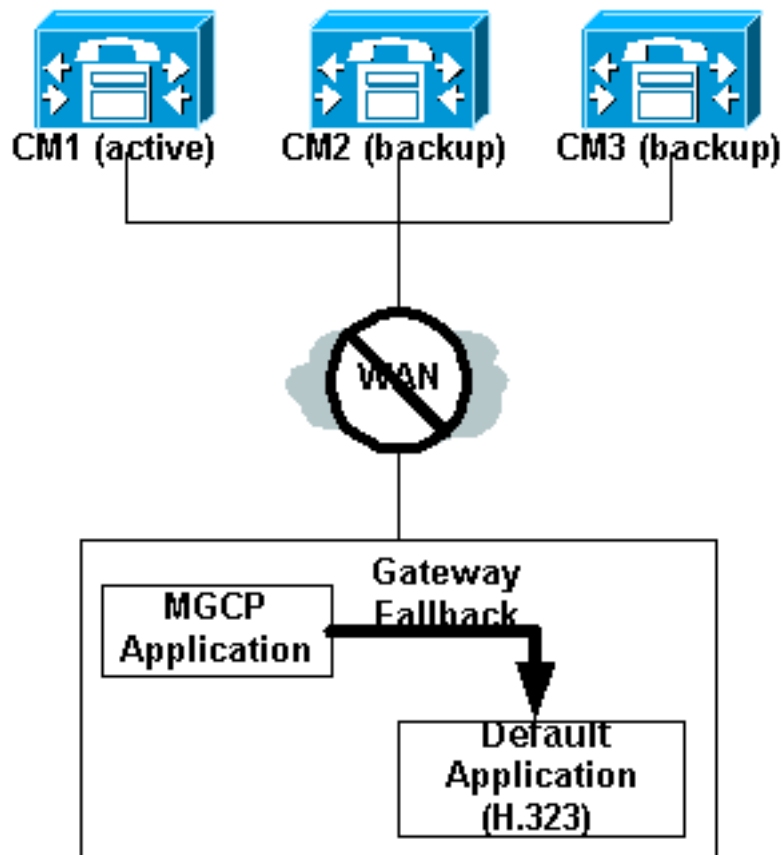
この設定は、ゲートウェイを通過する IP テレフォニートラフィックに基本的な接続サービスを提供します。ローカル MGCP ゲートウェイがフォールバックモードに移るとき、デフォルトの H.323 セッション アプリケーションに新規コールの処理責任が発生します。フォールバック期間中サポートされるのは、2 者間の基本的なボイス コールだけです。

ISDN T1 コールおよび E1 PRI コールを除き、フォールバック時にアクティブであった MGCP コールはすべて維持され、過渡的なコールは解放されます。ユーザがアクティブ MGCP コールを終了する（切る）と、MGCP アプリケーションはオンフック イベントを処理し、すべてのコールリソースをクリアします。

注: このドキュメントで使用されているコマンドの詳細を調べるには、[Command Lookup Tool](#)（[登録ユーザ専用](#)）を使用してください。

[ネットワーク図](#)

このドキュメントでは次の図に示すネットワーク



設定

このドキュメントでは次に示す設定を使用しています。次の3つの設定により、ユーザは次のことが可能になります。

1. Cisco IOS ゲートウェイでフォールバックを有効化できます。
2. フォールバック時に H.323 で発信コールを処理するように、MGCP 制御の POTS ダイアルピアを「destination-patterns」で設定できます。
3. (IP Phone への) 着信コールを、IP Phone 用のバックアップになるローカル ルータ (フォールバック Cisco CallManager サーバ) にルーティングするよう、Voice over IP (VoIP) ダイアルピアを設定できます。

IOS ゲートウェイ

Cisco IOS ソフトウェア リリース 12.3(13)T 以前の場合

```
interface FastEthernet0/0
ip address 192.168.1.12 255.255.255.0
```

```
ccm-manager fallback-mgcp
```

```
call application alternate DEFAULT
```

!----H.323 is the default signalling protocol. !--- An FXS-connected phone gets a dial-tone from the router !--- instead of being instructed to do so via MGCP by !---

Cisco CallManager. Cisco IOS ソフトウェア リリース

12.3(14)T 以降の場合 : R(config)#**application** R(config-app)#**global** R(config-app-global)#**service alternate** Default

POTS ダイアルピア

```
dial-peer voice X pots
application mgcpapp
destination-pattern 0T
!----Note that the destination-pattern command is needed
for H.323 when the MGCP fallback happens. port 2/0:15
forward-digits all dial-peer voice X pots application
mgcpapp destination-pattern 2000 !----Note that the
destination-pattern command is needed for H.323 when the
MGCP fallback happens. !-- port 1/0/0
```

注: Cisco IOS ソフトウェア リリース 12.3(7)T 以降では、**application mgcpapp** コマンドは PRI バックホールをサポートする POTS ダイアル ピアに適用されません。

次に示す SRST 設定は、Cisco IP Phone をサポートするために必要です。

SRST 設定

```
call-manager-fallback
!--- Enables SRST support and enters Cisco CallManager
fallback mode. max-conferences 8 ip source-address
192.168.1.12 port 2000 !--- 192.168.1.12 is the IP
address of the Cisco IOS gateway through which it !---
communicates with the Cisco IP Phones. !--- Here, the
Cisco IOS gateway is also configured as a Cisco
CallManager fallback server. max-ephones 10 max-dn 10
```

次に示す VoIP ダイアル ピア設定は、Cisco IOS ゲートウェイに接続されているローカル ルータが他にあり、フォールバック Cisco CallManager サーバとして機能している場合に必要です。稼働中の SRST により、ゲートウェイ自体がフォールバック Cisco Callmanager サーバとして機能する場合は、次の VoIP ダイアル ピア設定は不要です。MGCP フォールバックおよび SRST を同じ装置上で実行する場合、最低でも Cisco IOS ソフトウェア バージョン 12.2(11)T が必要になります。

VoIP ダイアル ピア

```
dial-peer voice 5000 voip

destination-pattern 5... !--- These are IP phone
directory numbers. session target ipv4: x.x.x.x !---
x.x.x.x. represents the IP address !--- of the fallback
Cisco CallManager server.
```

Cisco Unified SRST と Cisco Unified CallManager の統合

Cisco CallManager V3.3、4.x 以降がある場合

1. SRST リファレンスを作成します。Cisco CallManager から、[System] および [SRST] をクリックします。[Find and List SRST References] ページで、[Add a New SRST Reference] をクリックします。[SRST Reference Configuration] ページで、[SRST Reference Name] フィールドに名前を入力し、[IP Address] フィールドに Cisco SRST ルータの IP アドレスを入力します。[Insert] をクリックします。
2. SRST リファレンスまたはデフォルト ゲートウェイを 1 つ以上のデバイス プールに適用します。Cisco CallManager から、[System] および [Device Pool] をクリックします。[Device Pool Configuration] ページで、希望のデバイス プール アイコンをクリックします。[Device Pool Configuration] ページで、[SRST Reference] フィールドのメニューから [SRST reference] または [Use Default Gateway] を選択します。

確認

このセクションでは、設定が正常に動作しているかどうかを確認する際に役立つ情報を提供しています。

特定の **show** コマンドは、[Output Interpreter Tool](#) ([登録ユーザ専用](#)) によってサポートされています。このツールを使用すると、**show** コマンド出力の分析を表示できます。

次のコマンドは、MGCP フォールバック設定の検証に使用できます。

- [show call-manager-fallback all](#) : Cisco CallManager のフォールバック時の、ネットワーク内のすべての CiscoIP Phone、音声ポート、およびダイヤル ピアの詳細な設定を表示します。
- [show call-manager-fallback dial-peer](#) : Cisco CallManager のフォールバック時のダイヤル ピアの出力を表示します。
- [show ccm-manager fallback-mgcp](#) : Cisco CallManager サーバのリストと、それらの現在のステータスおよび可用性を表示します。

注: 次に示す `show ccm-manager fallback-mgcp` コマンドの出力は、MGCP フォールバックの発生前に取得したものです。

```
mgcp-gateway# show ccm-manager fallback-mgcp Current active Call Manager: 192.168.1.2 MGCP
Fallback mode: Enabled/OFF Last MGCP Fallback start time: None Last MGCP Fallback end time: None
Cisco CallManager への接続が失われると、MGCP フォールバックが発生し、出力は次のよう
になります。
```

```
mgcp-gateway# show ccm-manager fallback-mgcp Current active Call Manager: None MGCP Fallback
mode: Enabled/ON Last MGCP Fallback start time: 05:58:48 UTC Oct 6 2004 Last MGCP Fallback end
time: 05:56:30 UTC Oct 6 2004
```

次のコンソール メッセージは、MGCP フォールバック動作の検証に役立ちます。

```
Sep 23 16:35:34.707: %CALL_CONTROL-6-APP_NOT_FOUND: Application mgcpapp in dial-peer 1 not
found.
```

```
Handing callid 98 to the alternate app default
```

トラブルシューティング

トラブルシューティングのためのコマンド

特定の **show** コマンドは、[Output Interpreter Tool](#) ([登録ユーザ専用](#)) によってサポートされています。このツールを使用すると、**show** コマンド出力の分析を表示できます。

注: `debug` コマンドを使用する前に、[『debug コマンドの重要な情報』](#) を参照してください。

- [debug ccm-manager events](#) : Cisco CallManager のデバッグ情報を表示します。

関連情報

- [SRS テレフォニーおよび MGCP フォールバックの設定](#)
- [MGCP の設定 - Cisco CallManager と連携した BRI シグナリングのバックホールの制御](#)
- [Cisco Unified SRST 4.0 でサポートされるファームウェア、プラットフォーム、メモリ、および音声製品](#)

- [Cisco IP Telephony のトラブルシューティング](#)
- [テクニカルサポートとドキュメント - Cisco Systems](#)